



2月号

学校だより

令和2年 1月 31日

さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1

TEL 048-663-7627

FAX 048-663-9885

E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 ○すすんでまなぶ子 ○たすけあう子 ○げんきな子

児童数 743名

『北風に向かって立つ』

校長 関根 正佳



1年生が育てているチューリップとクロッカスの球根が、春はまだかと芽を出し始めました。梅の花も良い香りを漂わせています。すでに1月はあつという間に行ってしまった。2月は逃げ、そして3月は去ってしまいます。これからの一日一日を大切に、1年のまとめの期間として、教職員一同一生懸命取り組んでまいりたいと思います。引き続き本校の教育活動への御理解・御協力をお願いいたします。

さて、冬の厳しい寒さは、誰しも避けたいものですが、私は冬の寒さの中で鍛えられたことも多いと思っています。自分が小さい時を振り返ってみると、今より気温は低くよく氷点下になり、冬の寒さは厳しいものだったように思います。加えて、豊かではなかったので、兄たちのお下がりを着ることもありました。家のつくりは、土間があり、練炭のこたつに入ったり、石油ストーブでおもちを焼いて食べたりするのが、とてもうれしく感じたものでした。また、ふすまで仕切られていたので、冬は隙間風が寒かった思い出がありますが、こうした中にあっても、子どもたちは寒い冬の生活を楽しんでいました。学校では、晴れた日はもちろんのこと、天気の良い日でもよく外で遊びました。しもやけやひびだらけの手で水拭きの掃除も一生懸命やりました。今考えると、よくやっていたなと思います。それなりの知恵と工夫があったのはもちろんですが、冬の厳しい寒さに負けない心身の強さも、知らぬ間に身につけていたのだと思います。



少し話は変わりますが、鹿児島県の種子島に「風立」(ふりゅう)という言葉があります。その言葉の意味は、そこに伝わる『よか馬は風に向かって立つ』ということわざの様を表したものです。昔の農業は、動物特に「馬」が今の機械の代りをしていました。田畑を耕したり、物を運んだりしました。よく働く馬が農家には必要だったようです。種子島では、真冬の一番寒いときに、(若馬の)「よか馬」を探します。種子島は南の島ですが、風が多く吹く島だそうです。若馬には、風を避けようと木陰等に身を隠す馬がいます。また、風に向かって立っている馬もいます。村人は、この「風に向かって立っている」若馬を求めたそうです。寒さ等から逃げることをしない馬は、農家の人たちのためによく働いたからだそうです。

もちろん馬と比べるわけではありませんが、子どもたちには、『北風に向かって立つ』ことができるようになってほしいと思います。「北風」とは、この時期の寒さ、本当の寒さです。寒いからといって教室(部屋)に閉じこもっているのではなく、進んで外に出て、体を動かし友達とともに進んで健康な体づくりに励んでほしいと思います。そして、「北風」とはその寒さだけではなく、自分にとって「苦手なこと」や「いやなこと」、「やりたくないこと」だったり「つらいこと」だったりするかもしれません。自分の気持ちがその「北風」に負けてしまうこともあるでしょう。そんな時、逃げるだけではなく、努力してやり遂げる、強い気持ちで、向かって立つことも忘れないでほしいと思います。